

実践例「学習指導の深化・充実」

「課題1 家庭や地域と連携した特色ある教育課程の創造と推進」

I 学校名 えりも町立えりも岬小学校【日高管内】

II 研究の概要

1 地域に根差した特色ある教育活動を目指して

えりも岬地区は夏場のコンブ漁を中心に、第1次産業が生活の基盤となっていて親子代々家業を引き継ぐ家も多い。地域・保護者の教育的関心や学校教育に寄せる期待度は高く、学校の教育活動に対しても極めて協力的である。

総合的な学習の時間やその他の行事等でも、地域に出かけたり地域の方が来校されたり機会も多く、地域とのつながりはとても深い。地域に支えられ、地域で育つ子どもたちが、新しい時代に求められる資質・能力を確実に身に付けるために、学校は、豊富な物的・人的素材を教育活動にどう位置付け、地域と共に育てていくかが重要と考えている。

2 学校経営の基本

(1) 安心・安全できれいな学校

- ① 落ち着いて学校生活を送ることができる環境作り（学びのUD化）
- ② いじめや暴力を許さない風土を育てる教育活動の推進
- ③ 危機管理意識を常にもち、計画的・組織的に対応する職員集団

(2) 笑顔があふれ、明るい挨拶が交わされる学校

- ① 礼儀や場に応じた言葉遣いや言動を身に付ける指導の徹底
- ② 努力や成果を認め励まし合う共感的人間関係の構築
- ③ 非認知能力や自己肯定感を高める指導の工夫

(3) 保護者や地域と共に子どもを育てる学校

- ① 地域住民の参画を得て、学校と地域が一体となった特色ある学校づくり
- ② 保護者や地域から認められるような信頼関係作り
- ③ 地域の自然や歴史・文化を学び、伝統を継承する教育活動の推進

3 学校教育目標

「たくましく 心豊かな 子どもの育成」

4 今年度の重点目標

「思いや考えを伝え合い、互いの良さを認め合う子の育成」

～自分を発揮できる居心地の良い学校を目指して～

5 今年度の具体の取組（課題との関連）

学びづくり～家庭学習通信による保護者への啓蒙、ふるさと教育、
オンライン・集合学習、各種体験教室

心づくり ～挨拶の習慣化、ノーメディア日の設定、

身体づくり～体力向上における外部講師の活用、一日防災学校

絆づくり ～積極的な教育活動の公開と情報発信

Ⅲ 実践例

1 地域から学ぶ

(1) えりも岬少年神楽

本校では、総合的な学習の時間で神楽の歴史や楽器について調べることと並行して、地域の方から神楽演奏に関して技術的な指導を受けている。親子代々同じ楽器を担当している家庭も多く、地域、町内様々な場で披露しながら、伝統を継承している。親子共演を楽しみにして保護者も多い。

(2) ふるさと学習

地域の産業である漁業について、漁協と連携し講師派遣や見学体験などを行っている。地域一番の産業である昆布を使った料理教室「浜の母さん料理教室」では、漁協女性部の方々に講師に、「ツブホッキカレー」や「鱈のから揚げ」などを調理し全校で試食した。「海浜学習」での地引網やフノリの孢子まき、磯そうじも貴重な体験であり、環境保全の意識も高まっている。

(3) 地域人材の活用

本町では、「こんな学習をしたい」という要望に合わせて教育委員会より人材を紹介していただいている。今年度は「手話」と「木育」に関する講師を紹介していただき学習を行った。「手話」では、基本的な挨拶や数字、自分の名前を手話で表すことで、今後の生活に生かそうとする様子も見られた。「木育」は本町の緑化事業に関わる内容も多く、木工教室を通して「木を育てる」「森を守る」ことは「海を守る」ことを学んだ。



2 地域と学ぶ

(1) 一日防災学校

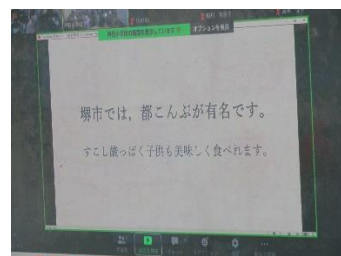
自治会と合同の避難訓練を含む「一日防災学校」を実施した。地震津波の警報の後に高台へ避難し、その後は自衛隊の災害車両の見学や避難所体験を行った。年に一度の実施ではあるが、児童が真剣に参加している様子を地域の方々も感心して見ており、あらためて防災について考えることができた。



2 他地域から学ぶ

(1) 昆布を通じたオンライン学習

今年度、昆布の生産地“えりも”と消費地“大阪府堺市”をオンラインでつないで授業を行った。事前に実際の昆布送って長さを実感してもらったり浜で採取できるチョウチョ貝を送ったりして交流し、当日はえりもの昆布漁や堺市の「都こんぶ」について調べたことを伝え合い質問し合ったりして交流を深めた。身近な昆布をあらためて見直すことができた。



3 幼保小と学ぶ

(1) 複式学級同士のオンライン学習

町内の複式校3校の高学年において、算数の遠隔学習を行った。複式学級の3名の担任が1学年ずつ（1名はフリー）受け持ち、少人数ではできない意見交流などを画面を通して行った。年度当初から見通しをもって準備をしていたが、単元の進度を揃えることが課題である。

(2) 交流学习（4年）合同宿泊学習（5年）合同修学旅行（6年）

町内4つの小学校では、4年生で参集しての交流学习を行っている。そこで深められた交流は、5・6年生での宿泊学習や修学旅行につながっている。事前学習や結団式、解団式はオンラインで行っているが、当日の実施に向けて特に大きな支障はないと感じている。中学校への意識も高まっている。

(3) 保育所との交流

同じ地区の保育所とは、運動会や学習発表会を合同で実施しているが、その他にも、指導者の相互参観、生活科へ保育園児を招待している。保育園児に小学校に慣れてもらえ、低学年児童の自己肯定感も育まれている。特に、2～3月にかけての小学校教員の保育所参観は、次年度入学する子どもたちを自分たちの目で見て共有できる良い機会となっている。また、昨年度から「幼保小架け橋プログラム」の指定を受けているが、今年度は「架け橋期カリキュラム」と0歳から18歳までの「引継ぎシート」を合同で作成している。18年間のつながりの中で、えりも町の子どもの成長を見守り、幼保小の円滑な接続に向けて今後も取り組んでいきたい。

